

令和7（2025）年度
札幌医科大学大学院医学研究科(修士課程)

学 生 募 集 要 項



札幌医科大学大学院医学研究科

<https://web.sapmed.ac.jp/>

大学院を志すみなさま

学校教育法第99条には、「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与すること」と記載されております。したがって、大学院生は教育を受ける学生であることと同時に研究者として社会に貢献する機会を得ることになります。どの分野の学術研究でも大学院生が世界中で大きな役割を果たしております。

札幌医科大学が1950年に現在の場所に開学し70年以上が経過しました。大学院医学研究科は1951年に博士課程が、2008年には修士課程が設置され、これまでに多様な学歴や経歴を持った人材を受け入れ、幅広い医学・医療の研究や実践の分野に多くの卒業生を送り出してきました。そうした先輩達の活躍は、病気をもった方々の診療にとどまらず、医学研究、医学教育、医療・保健行政など幅広い分野に広がっており、それぞれの分野の歴史をつくってきました。

医療は絶え間なく進歩しており医師はそれを学ぶことを怠った瞬間に取り残されてしまいます。札幌医科大学医学部は大学・大学院在学学生だけではなく卒業生に対しても学習のためのサポートをし続けます。令和3年には10年がかりの新キャンパスが完成し、医学部生、大学院生、卒業生が力一杯勉強・研究をする器ができました。札幌医科大学は有意義な研究生生活を送るためのソフト、ハード面でのサポート体制も整備されております。あとはエネルギーにあふれた皆様を迎え、札幌医科大学が新しい時代に向けて発展出来ることを確信しております。

札幌医科大学大学院医学研究科長 齋藤 豪

大学院医学研究科

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

求める学生像

<修士課程>

医学研究科・修士課程では、将来、高度の医学専門性を必要とする職業を担う人材として、次のような資質を持った人を求めます。

【知識・技能】

1. 知的好奇心、科学的探究心を持ち、医学的な知識・技能の修得に励む人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

2. 医科学の専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を持つ人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

3. 医科学に関連する様々な価値観を共有し、研究・教育・実務分野における貢献を志す人

入学までに学習しておくことが期待される内容

<修士課程>

(1) 自然科学、生物学などの医科学の学修に必要な基礎的知識

(2) 専門的な知識・技能を高めるための語学力

(3) 課題の抽出や解決に求められる論理的な思考力

(4) 情報を収集し分析する判断力と表現力

(5) 課題の解決に向けて意欲的に取り組む姿勢

(6) 学際的な展望を導くコミュニケーション能力

入学者選抜の基本方針

入学者に求める資質・能力について、下表に示す入学者選抜方法により評価・判定します。

※○及び◎は入学者選抜方法と学力の3要素との対応関係を示すものであり、配点の比重を示すものではありません。

<修士課程>

入学者選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力等の能力	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度
外国語試験	◎	○	
面接(口頭試問等含む) または筆記試験	◎	◎	◎
単位取得状況がわかる証明書	◎	○	
志望理由書	◎	◎	◎

目 次

I	学生募集要項	1~7
1	専攻と募集人員	1
2	出願資格	1
3	出願手続	2 ~ 3
4	外国人留学生の取扱い	4
5	入学者選抜方法	5
6	試験日、試験科目及び場所	5
7	合格者の発表	6
8	入学手続	6
9	長期履修制度	6
10	授業料	6
11	過去の試験問題について	7
12	個人情報の取り扱いについて	7
13	出願書類及び入学検定料の留意事項について	7
14	書類の提出及び問合せ先	7
II	修士課程の概要	8~15
1	目的	8
2	学生定員	8
3	修業年限	8
4	修了要件	8
5	学位	8
6	授業科目の概要	8
7	履修方法	9
8	医科学専攻(修士課程)の研究内容一覧	9
	分子細胞生物学	10
	生体分子形態学	10
	ゲノム医科学	10
	分子医学	10
	応用分子生物学	10
	臓器発生・再生医学	10
	免疫制御医学	10
	腫瘍免疫学	10
	腫瘍病理学	10
	臨床免疫学	11
	臨床病態学	11
	消化器病腫瘍学	11
	循環腎機能病態学	11
	呼吸機能制御医学	11
	循環機能治療学	11
	視覚機能制御医学	11
	感覚機能医学	12
	皮膚腫瘍学	12
	外科腫瘍学・消化器外科治療学	12
	口腔機能治療学	12
	環境保健予防医学	12
	公衆衛生学	12
	医療統計・データ管理学	12
	法医学	12
	精神機能病態学	13
	総合診療医学	13
	分子細胞機能学	13
	分子医化学	13
	分子病態生物学	13
	時間感染症学	13
	リハビリテーション学	13
	整形外科学	13
	中枢神経機能治療学	14
	神経・筋機能病態学	14
	医療薬学	14
	加齢制御薬理学	14
	生体機能制御医学	14
	生体危機管理学	14
	放射線腫瘍学・放射線医学物理学	14
	腎・尿路・生殖器治療学	15

脳神経機能学	15
細胞機能情報学	15
生体機能構造学	15
医学領域知的財産学	15
神経再生医療学	15
感染防御・制御学	15
臨床遺伝学	15
遺伝カウンセリング実習	15

Ⅲ 出願関係書類様式

I 学生募集要項

1 専攻と募集人員

医科学専攻 10名 ただし、各専攻分野ごとに募集する人員には限りがあります。

※ 医学領域知的財産学、分子医学、リハビリテーション学、脳神経機能学の専攻分野については、今回は募集しません。

2 出願資格(※外国人留学生は、「4 外国人留学生の取扱い」(1)によること)

出願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当するものとします。

- (1) 大学を卒業した者又は令和7(2025)年3月までに卒業見込みの者
 - (2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は令和7(2025)年3月までに授与される見込みの者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7(2025)年3月までに修了見込みの者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7(2025)年3月までに修了見込みの者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和7(2025)年3月までに修了見込みの者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和7(2025)年3月までに修了見込みの者
 - (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学の大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
 - (10) 大学に3年以上在学し、本学の大学院が定める所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学の大学院が定める所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (12) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、本学の大学院が定める所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (13) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学の大学院が定める所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (14) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7(2025)年3月31日までに22歳に達する者
- ※ (9)から(14)までにより出願しようとする者は、事前に出願資格の認定が必要となりますので、「3 出願手続 (1)出願資格の認定」による申請をしてください。

3 出願手続

(1) 出願資格の認定

「2 出願資格」に定める(9)から(14)までにより出願する者は、事前に出願資格の認定が必要となりますので、次のとおり申請してください。

① 申請期間
令和6(2024)年6月10日(月)から令和6(2024)年6月14日(金)まで
申請書類は書留速達郵便で受け付けます。また、封筒表面に「大学院医学研究科(修士課程)出願資格審査申請書在中」と朱書きで明記の上、申請期間内に必着としてください。
② 申請書類
(1) 出願資格審査申請書(本募集要項に添付されている本学所定の用紙)
(2) 志望理由書(本募集要項に添付されている本学所定の用紙(様式)により提出してください。)
(3) 受験許可書(社会人出願者は、本募集要項に添付されている本学所定の用紙に所属長が証明したものを提出してください。)
③ 出願資格審査の方法
申請書類により行う。ただし、必要と認められたものについては、口述審査を行う。
④ 出願資格審査の結果通知
出願期間までに資格審査結果を郵送により通知する。

(2) 出願期間

令和6(2024)年7月12日(金)から令和6(2024)年7月25日(木)まで

出願書類は書留速達郵便で、受け付けます。

また、封筒表面に「大学院医学研究科(修士課程)出願書類在中」と朱書きで明記の上、出願期間内に必着としてください。

(3) 出願書類(※外国人留学生は、「4 外国人留学生の取扱い(2)」によること)

① 入学願書	本募集要項に添付されている本学所定の用紙を使用してください。 志望する専攻分野については、第2志望まで記載することができます。 いずれの希望分野も、出願前に当該研究分野の指導教員の了承を得てください。
② 卒業(見込み)証明書	最終学歴のもの(大学改革支援・学位授与機構に学位を申請中の者は、学位授与申請受理証明書)を提出してください。
③ 単位修得(成績)証明書	最終学歴のもので、厳封されたものを提出してください。
④ 志望理由書	本募集要項に添付されている本学所定の用紙(様式)により提出してください。
⑤ 受験票・写真票	本学所定の用紙を使用し、写真(3ヵ月以内に撮影した上半身、正面、脱帽のもの縦4cm×横3cm)の裏面に氏名を記入した上、貼付してください。
⑥ 「在留カード」又は「住民票」の写し・パスポートの写し	※外国人出願者のみ。 「在留カード(表裏両面)」又は「住民票」の写しを提出してください。 国外からの出願者はパスポートの写しを提出してください。

⑦ 返信用封筒	受験票の送付に使用するため、長形3号の定型封筒(縦23.5cm×横12cm)に出願者の氏名及び送付先住所を記入し、244円分の切手(特定記録料金を含む。)を貼付してください。(速達を希望する場合は、さらに260円分の切手を貼ってください。)
⑧ 入学検定料	30,000円 「検定料の振込みについて」に記載されている振込方法等を熟読の上、本募集要項に添付されている本学所定の納付書に必要事項を記入して納付してください。 また、出願に際しては「検定料納付確認票」に振込金(兼手数料)受取書を添付して提出してください。
⑨ 受験許可書	社会人出願者は、本募集要項に添付されている本学所定の用紙に所属長が証明したものを提出してください。 (出願資格審査で認定された者は、提出を要しません。)

注1 入学願書の出願者氏名は、戸籍に記載されているとおりとしてください。

注2 入学願書の出願者氏名と証明書の氏名が異なる場合は、同一人であることを証明できる書類(戸籍個人事項証明書(戸籍抄本)等)を必ず添付してください。

注3 社会人とは、入学時に官公庁、企業、公的・民間研究所及び病院等に勤務し、勤務成績が優秀であり、入学後もその職を有する者をいいます。

(4) 事前面談

専攻分野の選定にあたっては、希望する専門分野の指導教員もしくは修士課程専攻長と相談すること。なお、専攻分野によっては、受入人数に限りがある場合があります。

(5) 身体等に障害を有する方に対する受験上の配慮について

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となる場合がありますので、必ず、事前に次表の問合せ先に電話等で申出・問い合わせを行ってください。その上で、次表に定める事前相談期間内に希望する専門分野の指導教員等と面談を行っていただくこととなります。(申出・問合せは事前相談期間前でも構いません。なお、申出が事前相談期間の終了直前であると希望に添えない場合があります。)

① 対象者

- (ア) 両眼矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者
- (イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度の者
- (ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者
- (エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者
- (オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
- (カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者
- (キ) (ア)から(カ)以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者

② 事前相談期間

令和6(2024)年6月10日(月)から令和6(2024)年6月28日(金)まで

③ 問合せ先

札幌医科大学 事務局学務課大学院係

(所在地・電話番号・FAX番号は、後述の「14 書類の提出及び問合せ先」を参照してください。)

4 外国人留学生の取扱い

(1) 出願資格

- ア 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7(2025)年3月までに修了見込みの者
- イ 外国において、学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院が、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- ウ 本学大学院が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(2) 出願書類

外国籍または国外居住者の出願者は、日本国内在住の身元保証人を通して書類を提出すること。
 なお、「(1) 出願資格」のイ又はウで出願する者は、事前に出願資格の認定が必要となるので、「3 出願手続(3) 出願資格の認定」に定める申請をすること。

① 入学願書	本募集要項に添付されている本学所定の用紙を使用してください。[日本語で作成] 志望する専攻分野については、第2志望まで記載することができます。 いずれの希望分野も、出願前に当該研究分野の指導教員の了承を得てください。
② 卒業(見込み)証明書	最終学歴のものを提出してください。
③ 単位修得(成績)証明書	最終学歴のもので、厳封されたものを提出してください。
④ 志望理由書	本募集要項に添付されている本学所定の用紙(様式)により提出してください。
⑤ 受験票・写真票	本募集要項に添付されている本学所定の用紙を使用し、写真(3ヵ月以内に撮影した上半身、正面、脱帽のもの縦4cm×横3cm)の裏面に氏名を記入した上、貼付してください。
⑥ 「在留カード」又は「住民票」の写し・パスポートの写し	「在留カード(表裏両面)」又は「住民票」の写しを提出してください。国外からの出願者はパスポートの写しを提出してください。
⑦ 返信用封筒	受験票の送付に使用するため、長形3号の定型封筒(縦23.5cm×横12cm)に志願者の氏名及び送付先住所を記入し、244円分の切手(特定記録料金を含む。)を貼付してください。(速達を希望する場合は、さらに260円分の切手を貼ってください。)
⑧ 入学検定料	[国費外国人(研究)留学生の場合は不要です。] 30,000円 「検定料の振込みについて」に記載されている振込方法等を熟読の上、本募集要項に添付されている本学所定の納付書に必要事項を記入して、納付してください。また、出願に際しては「検定料納付確認票」に振込金(兼手数料)受取書を添付して提出してください。

(3) 事前相談

専攻分野の選定にあたっては、希望する専門分野の指導教員もしくは修士課程専攻長と相談すること。

5 入学者選抜方法

合格者は、学力試験や口頭試問の結果、及び成績証明書その他の提出書類を総合して判定する。

6 試験日、試験科目及び場所

試験日	試験科目	時間	場所
令和6(2024)年8月23日(金)	英語	13:00~14:30	札幌医科大学 教育研究棟3階 D303講義室
	面接 (口頭試問等を含む)	15:30~	札幌医科大学 志望する各教室で実施

※ 受験者は、試験当日午後12時45分までに札幌医科大学教育研究棟3階 D303講義室前で受付を済ませてください。なお、受付は12時から開始します。



7 合格者の発表

- (1) 発表日時
令和6(2024)年9月20日(金) 午前10時
- (2) 発表方法
札幌医科大学教育研究棟西側玄関に掲示するとともに、結果を郵送文書で通知します。
なお、合格発表に関する問い合わせには、一切応じられません。
- (3) インターネットによる合格者受験番号の提供
本学のホームページ(<https://web.sapmed.ac.jp/>)に合格者受験番号を掲載します。
掲載時刻は合格発表日の午前10時以降となります。
※ インターネットによる合格者受験番号の提供は、合格の公示に代わるものではありません。

8 入学手続(詳細は合格発表後に改めて通知します。)

- (1) 受付期間
令和7(2025)年2月19日(水)から令和7(2025)年3月3日(月)まで
入学手続書類を持参する場合の受付時間は、午前9時から午後5時まで。ただし、土曜、日曜及び祝日を除く。(郵送の場合は、書留速達郵便で、封筒表面に「大学院医学研究科(修士課程)入学書類在中」と朱書きで明記の上、受付期間内に必着のこと。)

(2) 入学手続書類

① 戸籍個人事項証明書(戸籍抄本)	入学前3ヵ月以内に発行されたもの 1通
② 誓約書	連帯保証人連署の本学所定のもの。(連帯保証人は、父母又は学費支給者等とします。)
③ 入学料	282,000円(入学料は変更されることがあります。) なお、国費外国人(研究)留学生の場合は不要です。
④ 預金口座振替依頼書	授業料の引き落とし口座

9 長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限(2年)を超えて一定の期間(最大4年まで)にわたり計画的に教育課程を履修することを申請する者については、審査の上許可することがあります。

詳細については、事務局学務課大学院係までお問い合わせください。

10 授業料

- (1) 金額
年額535,800円(授業料は変更されることがあります。)
- (2) 納付方法
年額の2分の1相当額を前期(4月)・後期(10月)の2期に分けて納付(口座振替)します。
※在学中に授業料が改定された場合には、改定後の授業料が適用されます。

11 過去の試験問題について

本学の入試問題のうち、外国語(英語)の試験問題については、過去3年分を公表しています。希望者は「医学研究科修士課程過去問題請求」と明記したメモ用紙及び返信用封筒(角形2号封筒に宛名を明記し、250円切手を貼付したもの)を同封のうえ、事務局学務課大学院係まで送付してください。

12 個人情報の取り扱いについて

本研究科では、出願の際に提出された入学願書等の書類に記載されている個人情報については、入学者選抜(出願資格審査を含む)、合格発表、入学手続及び入学後の連絡事項を行う目的のためのみに利用します。

13 出願書類及び入学検定料の留意事項について

(1) 出願書類について

ア 出願書類に不備がある場合は受理できません。誤記、記入漏れがないよう注意してください。

イ 受理後の出願書類の内容変更には応じません。

ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合は、事務局学務課大学院係まで連絡してください。

ウ 受理した出願書類は返却しません。

エ 出願書類の記載事項が事実と相違する場合は、入学を取り消す場合があります。

(2) 入学検定料、入学料及び授業料について

既に納付した入学検定料、入学料、授業料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

ア 入学検定料を納付したが出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を誤って二重に納付した場合

※(2)のア及びイに該当する納付者は事務局学務課大学院係まで連絡してください。

なお、返還には日数を要しますのでご了承ください。

14 書類の提出及び問合せ先

出願書類、入学手続書類の提出及び学生募集要項、大学院に関する各種照会は、下記までお問い合わせください。

〒 060-8556

札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課大学院係

ダイヤルイン (011) 688-9469

電話 (代) (011) 611-2111 内線 23510

F A X (011) 611-2139

Ⅱ 札幌医科大学大学院医学研究科修士課程の概要

1 目 的

本学医学研究科医科学専攻修士課程は、医療に関連する分野、自然科学ならびに人文、社会科学分野等の大学教育を受けた学生を対象として、医学・医療についての専門的かつ高度な知識を教授し、幅広い医学知識と高い見識を有する専門的職業人を養成し地域の医療の高度化を図ることを目的として設置する。同時に、深い医学知識をも兼ね備え持つ研究者を育成し、医学・医療の分野を含めた様々の分野に送り出し、それぞれの分野における研究の多様化・活性化・高度化とさらなる飛躍を押し進めることを目的とします。

2 学生定員

入学定員10名 ・ 収容定員20名

3 修業年限

2年（在学期間は、4年を越えることができません。）

4 修了要件

本研究科修士課程に2年以上在学し、専攻の所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、本大学院医学研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

5 学 位

修士（医科学）

6 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	開講時期				単位数				
		1年		2年		必修	必修選択	自由選択		
		前	後	前	後					
講	一般教育科目	生体情報学(I)講義	○				1			
		生体情報学(II)講義	○				1			
		生体機能形態学(I)講義	○				1			
		生体機能形態学(II)講義	○				1			
		病態学(I)講義	○				1			
		病態学(II)講義	○				1			
		社会医学講義	○				1			
		医療倫理学講義※	○	○					2	
		医療心理学講義※	○	○					2	
	義	専門教育科目	臨床医学(I)講義	○	○			1		
			臨床医学(II)講義	○	○			1		
			臨床医学(III)講義	○	○			1		
			臨床医学(IV)講義	○	○			1		
			放射線医学講義	○	○			1		
			健康行動科学講義	○	○			1		
			神経科学講義	○	○			1		
			がんゲノム遺伝学講義		○					1
			基礎人類遺伝学講義	○	○					3
			臨床遺伝学講義		○					1
演	一般教育科目	生体情報学(I)演習	○	○	○	○		1単位／半期		
		生体情報学(II)演習	○	○	○	○				
		生体機能形態学(I)演習	○	○	○	○			4単位以上の取得が必要	
		生体機能形態学(II)演習	○	○	○	○				
		病態学(I)演習	○	○	○	○				
		病態学(II)演習	○	○	○	○				
	社会医学演習	○	○	○	○					
	習	専門教育科目	臨床医学(I)演習	○	○	○	○		特別研究と関連した科目で3単位以上を取得する	
			臨床医学(II)演習	○	○	○	○			
			臨床医学(III)演習	○	○	○	○			
			臨床医学(IV)演習	○	○	○	○			
			放射線医学演習	○	○	○	○			
			健康行動科学演習	○	○	○	○			
			神経科学演習	○	○	○	○			
			遺伝カウンセリング演習		○					

科目区分	授業科目の名称	開講時期				単位数		
		1年		2年		必修	必修選択	自由選択
		前	後	前	後			
特別研究科目	分子細胞生物学	○	○	○	○	12単位の取得が必要。	3単位／半期	
	生体分子形態学	○	○	○	○			
	ゲノム医科学	○	○	○	○			
	分子医学	○	○	○	○			
	応用分子生物学	○	○	○	○			
	臓器発生・再生医学	○	○	○	○			
	免疫制御医学	○	○	○	○			
	腫瘍免疫学	○	○	○	○			
	腫瘍病理学	○	○	○	○			
	臨床免疫学	○	○	○	○			
	臨床病態学	○	○	○	○			
	消化器病腫瘍学	○	○	○	○			
	循環腎機能病態学	○	○	○	○			
	呼吸機能制御医学	○	○	○	○			
	循環機能治療学	○	○	○	○			
	視覚機能制御医学	○	○	○	○			
	感覚機能医学	○	○	○	○			
	皮膚腫瘍学	○	○	○	○			
	外科腫瘍学・消化器外科治療学	○	○	○	○			
	口腔機能治療学	○	○	○	○			
	環境保健予防医学	○	○	○	○			
	公衆衛生学	○	○	○	○			
	医療統計・データ管理学	○	○	○	○			
	法医学	○	○	○	○			
	精神機能病態学	○	○	○	○			
	総合診療医学	○	○	○	○			
	分子細胞機能学	○	○	○	○			
	分子医化学	○	○	○	○			
	分子病態生物学	○	○	○	○			
	時間感染症学	○	○	○	○			
	リハビリテーション学	○	○	○	○			
	整形外科学	○	○	○	○			
	中枢神経機能治療学	○	○	○	○			
神経・筋機能病態学	○	○	○	○				
医療薬学	○	○	○	○				
加齢制御薬理学	○	○	○	○				
生体機能制御医学	○	○	○	○				
生体危機管理学	○	○	○	○				
放射線腫瘍学・放射線医学物理学	○	○	○	○				
腎・尿路・生殖器治療学	○	○	○	○				
脳神経機能学	○	○	○	○				
細胞機能情報学	○	○	○	○				
生体機能構造学	○	○	○	○				
医学領域知的財産学	○	○	○	○				
神経再生医療学	○	○	○	○				
感染防御・制御学	○	○	○	○				
臨床遺伝学	○	○	○	○				
遺伝カウンセリング実習			○	○			6	

※1年前期又は後期のいずれかに開講する。

7 履修方法

修士課程教育は1年間を2学期制として前期と後期にわけらる。

「講義」は1年前期に行う一般教育科目と1年前期から後期に行う専門教育科目それぞれ7科目(1科目1単位)が必修であり、1年目に14単位を修得する。

「演習」は必修選択である。半期の履修で1単位とし、2年間に1科目以上の科目で4単位以上を修得する。特別研究を円滑にすすめるため、特別研究で選択した科目と関連した演習を3単位以上選択する。広い分野で幅広い知識を修得することを希望する場合には4単位を超えて選択修得することも可能である。

「特別研究」は必修選択である。半期の履修で3単位とし、2年間で計12単位を修得する。「特別研究」科目は、募集要項に掲載する修士学生を募集する講座と教室の中から選択する。

以上、2年間で計30単位以上を修得する。

その他、修了要件に算入されない自由選択科目(講義:5科目9単位、演習:1科目2単位、特別研究:1科目6単位)があり、希望者は履修可能である。

8 医科学専攻(修士課程)の研究内容一覧

分野名	指導教員	主たる研究内容
分子細胞生物学	佐々木 泰史 教授	1 がんゲノム医療推進を目指した基礎的研究
連絡先 E-mail yasushi@sapmed.ac.jp		2 種々の腫瘍におけるがん関連遺伝子の同定と機能解析 3 がん精巢抗原遺伝子の発現に起因するがん幹細胞の機能形態的研究
生体分子形態学	大崎 雄樹 教授	1 膜脂質と脂質構造体(マイクロドメイン・脂肪滴)の生理機能の解明
連絡先 E-mail yohsaki@sapmed.ac.jp		2 神経培養法を用いた種々のストレス下での細胞内小器官の動態と神経変性のメカニズムの解明 3 選択的神経標識法と超微形態連続解析法を用いた、神経細胞の機能解析 4 胎生期栄養環境による生活習慣病発症リスクの解明
ゲノム医科学	(選考予定)	1 悪性腫瘍の発症機構の解明をめざした分子遺伝学および分子生物学的研究
連絡先 E-mail		2 がん抑制遺伝子p53の機能解明に関する研究 3 がんゲノム解析を利用したがんの遺伝子診断、個別化治療への展開および応用をめざした研究
分子医学	(未定)	1 肺癌の分子細胞病理学的研究
連絡先 E-mail		2 特発性肺線維症の発症・進展機構の解明 3 周皮細胞・線維芽細胞の細胞生物学的解析 4 正常末梢肺上皮幹細胞の細胞生物学的解析
※今回は、募集していません。		
応用分子生物学	鈴木 拓 教授	1 疾患におけるエピジェネティックな異常に関する研究
連絡先 E-mail hsuzuki@sapmed.ac.jp		2 癌のエピゲノム異常の解析と診断・治療への応用 3 発癌分子メカニズムの解析と応用に関する研究 4 疾患における機能性RNAIに関する研究 5 癌微小環境に関わる分子の同定と機能解析
臓器発生・再生医学	(選考予定)	1 肝幹・前駆細胞の増殖及び分化能についての研究
連絡先 E-mail		2 細胞移植による肝細胞置換と肝再生促進による肝疾患治療法の研究 3 細胞外基質の肝組織形成における役割 4 自己免疫性肝胆道疾患の病態解明 5 胆管癌の新規治療薬の開発
免疫制御医学	一宮 慎吾 教授	1 T細胞の分化、機能調節のメカニズム
連絡先 E-mail ichimiya@sapmed.ac.jp		2 抗原特異的な抗体産生のメカニズム 3 免疫関連疾患におけるエピイムノームの研究 4 免疫関連疾患の病態形成に関わるリンパ球サブセットの研究
腫瘍免疫学	(選考予定)	1 癌の特異的免疫機構と癌ワクチン開発
連絡先 E-mail		2 リンパ球抗原、機能と分子免疫学、腫瘍化の分子機構 3 免疫寛容の分子機構、免疫記憶の分子機構 4 熱ショック蛋白に代表される分子シャペロンの機能の分子病理 5 抗原の処理、提示と分子シャペロン、自然免疫による特異免疫活性化機構 6 免疫遺伝学、遺伝子診断 7 細胞ストレス応答と病気のかかわり
腫瘍病理学	(選考予定)	1 各臓器の悪性腫瘍の病理形態像と免疫組織化学的特徴の解析
連絡先 E-mail		2 各臓器の悪性腫瘍の遺伝子学的解析 3 各臓器の悪性腫瘍の悪性度、予後を規定する因子および治療標的分子の解明 4 新しい病理診断技術の開発

臨床免疫学	高橋 裕樹 教授	1 IgG4関連疾患の発症リスクに関する研究
連絡先 E-mail	htakahas@sapmed.ac.jp	2 IgG4関連疾患におけるアレルギー性炎症の関連性
		3 IgG4関連疾患におけるステロイド性骨壊死の予防
		4 全身性強皮症の早期診断に関する研究
		5 生物学的製剤を安全に使用するためのモニタリングに関する研究
臨床病態学	高橋 聡 教授	1 感染症の迅速診断法の開発
連絡先 E-mail	stakahas@sapmed.ac.jp	2 感染症の遺伝子型別と感染対策への応用
		3 感染症サーベイランスの効果的活用法
		4 手指消毒薬使用の臨床現場への還元
		5 地域での効果的な感染対策の分析
		6 様々な微生物検出法の実践的活用
消化器病腫瘍学	仲瀬 裕志 教授	1 炎症性腸疾患の病態解明とこれに基づく新規治療法開発
連絡先 E-mail	hiro_nakase@sapmed.ac.jp	2 炎症性腸疾患発癌機序に関する粘膜免疫機構とその制御
		3 炎症性消化器癌に対する予防法探索
		4 オルガノイドを用いた消化器疾患病態解明と治療反応性の研究
		5 腸内細菌叢と発がんに関する研究
		6 腸内細菌叢の変化と臓器横断的影響に関する研究
		7 脂肪性肝疾患発症における脂肪酸代謝の免疫応答への影響
		8 マウスモデルを用いた肝炎における免疫学的機能解析
		9 肝がんに対する分子標的治療薬の最適化研究
		10 IgG4関連胆管炎・膵炎の病態解明と治療法の探求
		11 腸管における炎症反応と胆膵疾患に与える影響に関する研究
循環腎機能病態学	橋本 暁佳 教授	1 高血圧症の成因と病態
連絡先 E-mail	ahashimo@sapmed.ac.jp	2 腎疾患の成因と水・電解質代謝
		3 糖尿病の成因と病態
		4 不整脈・虚血性心疾患の診断と治療に関する臨床的研究
		5 心筋疾患、たこつぼ心筋症の病態・診断・治療
		6 肺循環に関する臨床的研究
呼吸機能制御医学	千葉 弘文 教授	1 肺癌の増殖と免疫に関する研究
連絡先 E-mail	hchiba@sapmed.ac.jp	2 間質性肺炎・肺線維症の病態、診断、治療に関する研究
		3 呼吸器感染症と肺自然免疫に関する研究
		4 気管支喘息の病態、診断、治療に関する研究
		5 肺・気管支の構造解析と仮想内視鏡検査の開発に関する研究
循環機能治療学	(選考予定)	1 開心術時の心筋保護
連絡先 E-mail		2 虚血再灌流による臓器障害における発生機序の解明とその抑制
		3 弓部大動脈瘤手術の脳脊髄保護
		4 補助循環による重症心不全の治療
		5 大血管手術後の脊髄虚血障害に対する再生医療
		6 心臓・大血管手術に対する低侵襲手術
視覚機能制御医学	(選考予定)	1 緑内障における分子病態及び治療研究
連絡先 E-mail		2 網膜変性症の分子病態及び治療研究
		3 糖尿病性網膜症の分子病態解析
		4 眼窩部炎症性線維性疾患の分子病態及び治療研究
		5 三次元培養を用いた眼疾患病態モデリングの研究

感覚機能医学	高野 賢一 教授	1 蝸牛細胞の保護・再生を目指した分子生物学的研究
連絡先 E-mail kent@sapmed.ac.jp		2 先天性難聴における微生物学的および遺伝学的研究 3 人工内耳装用児の療育法に関する臨床的研究 4 嗅覚障害における臨床病態生理と新規治療法 5 味覚障害における臨床病態生理と新規治療法
皮膚腫瘍学	宇原 久 教授	1 メラノーマの発癌と細胞死過程の分子生物学的研究
連絡先 E-mail uharah@sapmed.ac.jp		2 メラノサイトおよびメラノサイト幹細胞の分化関連遺伝子の研究 3 皮膚癌の早期診断法および分子標的治療法の確立 4 アトピー性皮膚炎とサイトカインの分子生物学的研究
外科腫瘍学 ・消化器外科治療学	竹政 伊知朗 教授	1 癌特異的免疫療法・癌ワクチン療法の開発と実践
連絡先 E-mail itakemasa@sapmed.ac.jp		2 癌の進展・転移機序の解明と癌の個性に関する研究 a) ctDNAを用いた癌活動度の適時診断 b) 新規癌特異的分子の同定と機能解析・治療応用 c) トランスレーショナルリサーチの実践 3 遺伝子操作による癌幹細胞モデル開発 4 根治性と低侵襲性を両立させた最先端手術方法の開発 5 ロボット手術・鏡視下手術の適応拡大 6 正常上皮細胞の長期培養と正常器官モデルの開発 7 遠隔外科医療実践に向けたシステム開発 8 AIを用いた癌画像・病理診断法の開発
口腔機能治療学	宮崎 晃亘 教授	1 顎口腔領域の組織再生や形態・機能再建に関する研究
連絡先 E-mail amiyazak@sapmed.ac.jp		2 口腔癌の免疫療法に関する研究 3 口腔癌の予後因子に関する研究 4 顎変形症の病態と外科矯正の適応に関する研究 5 周術期等口腔機能管理に関する疫学的研究
環境保健予防医学	小林 宣道 教授	1 ウイルス・細菌感染症の分子疫学
連絡先 E-mail nkobayas@sapmed.ac.jp		2 ウイルスの遺伝子学的多様性の形成メカニズムの研究 3 細菌の遺伝子型別法の開発・検討 4 細菌の薬剤耐性遺伝子・病原遺伝子の多様性の研究
公衆衛生学	大西 浩文 教授	1 循環器疾患、特定疾患、その他の疾患の予防医学的、疫学的研究
連絡先 E-mail hohnishi@sapmed.ac.jp		2 高齢者のフレイル・サルコペニア予防に関する研究 3 小児リハビリテーションにおける評価尺度の開発 4 職場におけるストレスと精神的健康度に関する研究 5 地域住民や学童に対する予防教育介入研究 6 情報伝達方法に関する研究
医療統計・データ管理学	樋之津 史郎 教授	1 レセプトデータベースを用いたビッグデータ解析
連絡先 E-mail hinotsus@sapmed.ac.jp		2 診療ガイドライン作成支援と論文の評価 3 文献検索結果の統合と分析 4 システムティックレビューの方法論と実践 5 データマネジメントと統計解析結果の検討
法医学	渡邊 智 教授	1 モデル動物による分子病態学的研究
連絡先 E-mail satwat36@sapmed.ac.jp		1) 外傷など法医学的侵襲に対する生体反応 2) 覚醒剤など乱用薬物の依存形成機構 2 死後CTの法医実務への応用 1) 死因診断基準の策定 2) 個人識別法の開発

精神機能病態学	河西 千秋 教授	1 精神科救急・リエゾン精神医学・緩和医療学・精神腫瘍学におけるヒトの行動科学研究 2 認知症の病態と経過に関する心理社会的研究 3 自殺のハイリスク者に対する介入方略開発研究 4 ジェンダーに関する心理社会的研究 5 ICTを用いた精神科治療とメンタルヘルス支援に関する研究 6 地域精神保健とメンタルヘルス・リテラシーに関する研究 7 幹細胞等を用いた精神疾患(気分障害、統合失調症、物質依存症、認知症)の治療法の開発 8 精神科リハビリテーション研究
総合診療医学	辻 喜久 教授	1 総合診療医の在り方に関する研究 2 急性期疾患の診断と経済効果に関する研究 3 医療人養成における教育手法の開発に関する研究 4 医師のプロフェッショナリズムに関する研究 5 医療施設の地域経済への影響に関する研究
分子細胞機能学	白土 明子 教授	1 宿主-細菌の相互応答と感染調節 1) 宿主感知時の細菌遺伝子発現制御と感染調節 2) 細菌毒性を規定する環境中因子の構造と機能 2 自然免疫による生体恒常性維持の調節 1) 食細胞による微生物および変性自己細胞の処理 2) 生体防御タンパク質の構造と機能、及び臨床応用
分子医化学	高橋 素子 教授	1 糖鎖によるシグナル制御メカニズムの解明 2 肺コレクチンの機能解析 3 糖鎖構造を標的とする新規がん治療法の開発 4 呼吸器疾患における肺破骨様細胞の機能解析
分子病態生物学	小山内 誠 教授	1 タイト結合の分子病理学 2 がんとタイト結合 3 生体バリアを担うタイト結合の機能病理学 4 星細胞を起点として理解する多彩な病態と新しい治療戦略の創出 5 遺伝子組み換え動物を用いた疾患モデルの作製
時間感染症学	鷲見 紋子 教授	1 感染症流行変動を含む非線形・非定常時系列データの解析および解析方法の構築 2 感染症流行変動と気象データの相関関係の測定 3 感染症の空間的流行伝播の測定 4 感染症数理モデルの構築
リハビリテーション学	(選考予定)	1 高次脳機能障害の定量的評価と認知リハビリテーション 2 動作, 行為, 行動の障害と病巣・メカニズム論 3 脳卒中における運動障害の時系列的動作解析 4 慢性疼痛に対するリハ・アプローチ 5 リハビリテーションの見地からみた認知症患者の生活機能向上
整形外科学	寺本 篤史 教授	1 痛みの発生メカニズムとその対策 2 骨軟部腫瘍の発生機序解明と新規治療法開発 3 関節と脊椎のバイオメカニクス 4 骨代謝(骨粗鬆症) 5 脊髄の再生医学 6 スポーツ医学

※今回は、募集していません。

中枢神経機能治療学	三國 信啓 教授	1 脳機能温存手術のための臨床研究(神経画像解析、ナビゲーション手術、覚醒下手術、脳機能マッピング、モニタリング)
連絡先 E-mail	mikunin@sapmed.ac.jp	2 脳虚血の病態説明・治療
		3 脊髄外科の研究
		4 頭蓋底外科の研究
		5 機能的疾患の病態説明・治療(てんかん・パーキンソン病など)
神経・筋機能病態学	久原 真 教授	1 アルツハイマー病の病態説明と新たな診断法・治療法の開発
連絡先 E-mail	hisahara@sapmed.ac.jp	2 神経変性疾患の分子病態の説明と治療研究
		3 免疫介在性神経疾患の病態説明と治療研究
		4 神経内科疾患の神経生理学的研究
		5 脳血管障害の臨床と医療システムの開発
医療薬学	福土 将秀 教授	1 分子標的抗がん剤の適正使用に関する臨床薬理研究
連絡先 E-mail	fukudom@sapmed.ac.jp	2 免疫チェックポイント阻害剤の適正使用に関する臨床薬理研究
		3 薬物体内動態と薬効の個人差に関する基礎研究
		4 ゲノム情報を活用した精密医療の開発研究
		5 医薬品の医療経済的評価に関する調査研究
加齢制御薬理学	久野 篤史 教授	1 サーチュインによる蛋白アセチル化制御の心疾患における役割説明
連絡先 E-mail	kuno@sapmed.ac.jp	2 心不全における血管内皮細胞の役割説明
		3 骨格筋老化・筋疾患における蛋白アセチル化制御の破綻と治療への応用
		4 皮膚の老化における細胞老化・SIRT1の役割に関する研究
		5 腎疾患におけるプログラム細胞死の制御機能と病態への関与の説明
生体機能制御医学	(選考予定)	1 敗血症の病態説明と治療に関する研究
連絡先 E-mail		2 急性呼吸不全(ARDS)の病態と人工呼吸管理に関する研究
		3 急性腎障害の病態と血液浄化療法に関する研究
		4 急性肝不全の病態と治療に関する研究
		5 止血凝固線溶異常の病態説明と治療に関する研究
		6 集中治療後症候群(筋麻痺、精神症状、認知機能、睡眠)に関する研究
		7 重症患者の栄養療法に関する研究
生体危機管理学	成松 英智 教授	1 心肺蘇生法(PCPS)に関する研究
連絡先 E-mail	enarimat@sapmed.ac.jp	2 急性中毒・環境障害時の病態生理に関する研究
		3 病院前救護・災害医療に関する研究
		4 救急にかかわる病気やけがの予防に関する研究
		5 心肺蘇生時や脳神経障害時の脳神経保護に関する研究
		6 高度侵襲時の病態生理に関する研究
		7 多発外傷時・重症熱傷時の侵襲制御および治療法に関する研究
		8 敗血症/多臓器不全の病態生理に関する研究
放射線腫瘍学・放射線医学物理学	(選考予定)	1 放射線腫瘍学に関する研究
連絡先 E-mail		2 放射線医学物理学に関する研究
		3 高精度放射線治療に関する研究
		4 放射線治療の品質管理に関する研究
		5 血管性および腫瘍性病変の血流定量化に関する研究
		6 機能温存塞栓術の開発に関するIVR研究
		7 放射線生物学に関する研究

腎・尿路・生殖器治療学	舛森 直哉 教授	1 泌尿器生殖器腫瘍学/臨床腫瘍学/腫瘍免疫学
連絡先 E-mail	masumori@sapmed.ac.jp	2 泌尿器科悪性腫瘍手術における低侵襲・機能温存手術に関する研究
		3 前立腺肥大症・下部尿路機能障害の疫学、発生機序、および治療の研究
		4 尿路性器感染症の疫学、発生機序と治療の研究、特に尿路粘膜免疫学
		5 腎移植における免疫抑制療法、臓器保護、拒絶反応機序解明に関する研究/移植免疫学
		6 性同一性障害の基礎的・臨床的研究
		7 性機能障害の成因と治療の研究
脳神経機能学	(選考予定)	1 非侵襲的脳機能検査法を用いたヒト高次脳機能の解明
連絡先 E-mail		2 運動制御に関わる中枢神経機構の解明
		3 脳血管細動脈による脳循環動態の調節の解明
		4 海馬シナプスの伝達機構の解明
※今回は、募集していません。		5 ヒトの表情認知・情動惹起過程の解明
細胞機能情報学	(選考予定)	1 イオンチャネルの構造機能連関
連絡先 E-mail		2 疾病の原因としてのイオンチャネル機能異常(特に骨格筋の運動疲労について)
		3 生理的機能でのイオンチャネルの役割
		4 発生期心筋細胞のカルシウム動態およびエネルギー代謝の変化
生体機能構造学	永石 欽和 教授	1 炎症性腸疾患の病態解明と間葉系幹細胞治療に関する研究
連絡先 E-mail	kanna@sapmed.ac.jp	2 骨代謝疾患の幹細胞治療に関する研究
		3 間葉系幹細胞を用いたアルツハイマー型認知症の治療
		4 間葉系細胞から明らかにする組織の再生と変性メカニズムの探索
		5 献体脳を用いた認知症発症抑制メカニズムの解明
医学領域知的財産学	(選考予定)	1 医療関連技術の特許制度による有効な保護と活用に関する研究
連絡先 E-mail		2 医学研究分野における産学連携システムの構築
※今回は、募集していません。		3 医療開発における特許制度と薬事制度のあり方
神経再生医療学	本望 修 教授	1 幹細胞の増殖・分化に関する研究
連絡先 E-mail	honmou@sapmed.ac.jp	2 幹細胞の分化制御に関する研究
		3 障害された脳や脊髄の可塑性や再生に関する研究
		4 幹細胞を用いた再生治療に関する基礎的研究
		5 各種脳神経疾患への臨床研究
		6 細胞治療の効果判定の為に新しい方法の研究
		7 再生医療の推進の為に基盤整備に関する研究
		8 臨床グレードの幹細胞の供給システムの確立に関する研究
感染防御・制御学	横田 伸一 教授	1 ウイルス感染による自然免疫情報伝達系の攪乱機構
連絡先 E-mail	syokota@sapmed.ac.jp	2 ウイルス複製にかかわる宿主因子の探索
		3 新しい作用機序に基づく抗ウイルス薬、抗菌薬の探索
		4 抗菌薬が有する抗菌活性以外の薬理作用
		5 病原体関連分子パターン(PAMPs)の構造、生物活性、抗原性
		6 抗菌薬耐性菌の耐性機構、分子疫学
臨床遺伝学	櫻井 晃洋 教授	1 わが国における「遺伝」の概念に関する研究
連絡先 E-mail	sakurai.akihiro@sapmed.ac.jp	2 日本の医療における遺伝医療の現状と問題点に関する研究
		3 がんゲノム医療に関する研究
		4 網羅的遺伝子解析と遺伝医療に関する研究
		5 出生前診断をめぐる医療と社会に関する研究
		6 遺伝医療に関する法と倫理に関する研究
		7 社会における遺伝リテラシー向上に関する研究
遺伝カウンセリング実習	櫻井 晃洋 教授	1 遺伝カウンセリングにおける導入と評価に関する研究
連絡先 E-mail	sakurai.akihiro@sapmed.ac.jp	2 遺伝カウンセリングにおける家系情報収集法に関する研究
		3 遺伝学的検査の適切な実施のあり方に関する研究
※「志望する専攻分野」としての選択は不可		4 遺伝カウンセリングにおける生命倫理原則に関する研究

令和7(2025)年度
札幌医科大学大学院医学研究科(修士課程)
入 学 願 書

※受付番号	第	号	※受付月日	月	日	
貴大学大学院医学研究科へ入学したいので、所定の書類を添えてお願いいたします。						
令和 年 月 日 (フリガナ)						
札幌医科大学大学院医学研究科長 様			出願者氏名		印	
			生年月日 昭和・平成 年 月 日		男・女 (歳)	
出願種別	1. 一般		2. 社会人		3. 出願資格審査合格	4. 外国人留学生
志望する 専攻分野	第1志望	分野	第2志望	分野		
出願資格	大学 学部 学科		昭和 平成 令和	年 月 日	卒業 卒業見込	
	短期大学(部) 専攻(科)		昭和 平成 令和	年 月 日	修了 修了見込	
上記以外 の出願資格	(最終学校名及び卒業年月日を記入してください。)					
Email	@					
本 籍 地	都 ・ 道 ・ 府 ・ 県					
現 住 所	〒	自宅電話 ☎() — 携帯電話 ☎() —				
連絡先	本人	通知を受ける場所	〒	☎() —		
	父母等	現住所	〒	☎() —		
		(フリガナ) 氏名			本人と の関係	
学 歴	年 月	高等学校卒業				
	.					
	.					
	.					
職 歴	年 月					
	.					
	.					
	.					

(注1) 志願者は、※印欄を除く該当欄に記入し、所要の文字を○で囲んでください。

(注2) 出願者氏名は、戸籍に基づいて正確に記載してください。

(注3) 国外から出願する外国人留学生は、「連絡先・父母等」の欄に、身元保証人に関する事項を記載してください。

志 望 理 由 書

氏 名

札幌医科大学大学院医学研究科(修士課程)

--	--

注:本様式に直接記入するか、本様式(A4判)に準じてパソコン等により作成すること。

令和7(2025)年度

札幌医科大学大学院医学研究科(修士課程)入学試験

受験票	
受験番号	※
氏名	
志望する 専攻分野	第1志望
	第2志望
試験日程	<p>令和6(2024)年8月23日(金)</p> <p>13:00~14:30 外国語(英語)Ⅰ・Ⅱ</p> <p>15:30~16:00 面接(専攻分野・第1志望)</p> <p>16:00~16:30 面接(専攻分野・第2志望)</p> <p>◇辞書持ち込み可。電子辞書は不可。</p> <p>◇試験当日は必ずこの受験票を持参すること。</p> <p>◇裏面に記載の受験上の注意を確認しておくこと。</p> <p>＜外国語試験会場＞</p> <p>札幌医科大学 教育研究棟3階 D303講義室</p> <p>札幌市中央区南1条西17丁目</p> <p>電話011-611-2111(内線23510)</p>
	写真貼付 縦4cm×横3cm

- ・ ※印欄は記載しないでください。
- ・ 氏名は、戸籍に基づいて正確に記載してください。
- ・ 志望する専攻分野欄は、第2志望がない場合は、第1志望のみ記入のこと

令和7(2025)年度

札幌医科大学大学院医学研究科(修士課程)入学試験

写真票	
受験番号	※
氏名 (フリガナ)	
志望する 専攻分野	第1志望
	第2志望
	<p>＜写真貼付＞</p> <p>縦4cm×横3cm</p>

受験上の注意

- 1 試験当日、午後12時45分までに教育研究棟3階 D303 講義室で受付を済ませること。
なお、受付は12時から開始します。
- 2 各科目の試験開始5分前までに、試験室に入室すること。
- 3 試験開始時刻に遅刻した場合は、開始後30分以内に限り受験を認めません。ただし、試験時間の延長は認めません。
- 4 試験室では机上の番号と受験番号が同一であることを確認して着席すること。
- 5 机上には受験票、鉛筆(シャープペンシル)、消しゴム、時計、辞書以外の所持品を置かないこと。
- 6 試験室に入室してから試験終了時までの間、退出は認めません。試験中の発病、用便等やむを得ない場合は、監督員の指示に従うこと。
- 7 試験室に携帯電話(スマートフォン)を持ち込む際は、必ず電源を切ること。

検定料の振込について

振込方法

- 1 検定料30,000円は、本学募集要項に添付されている振込用紙に必要事項を記入の上、最寄りの郵便局の窓口で、出願手続前までにお振り込みください。
- 2 振込用紙(払込取扱票、振替払込請求書兼受領証、振替払込受付証明書)の「ご依頼欄」を、黒のボールペンで正確に記入してください。
- 3 振込後「振替払込受付証明書」を右の検定料納付確認票に貼付して、出願書類と一緒に提出してください(受付郵便局の収納印のないものは無効)。

留意事項

- 1 出願書類を大学窓口に提出する際、郵便普通為替証書あるいは現金を納付して手続きをすることはできませんので、ご注意ください。
- 2 検定料が振り込まれていない場合、「振替払込受付証明書」が貼付されていない場合、「振替払込受付証明書」に受付郵便局の収納印がない場合は、出願書類の受理はできません。
- 3 インターネットバンキング、モバイルサービス等での振込はできません。ご了承ください。

札幌医科大学大学院医学研究科

入学試験 検定料納付確認票

※受験番号	
氏名	
「振替払込受付証明書」貼付欄	

注)※印欄は大学側で使用するので、記入しないでください。

受験許可書

氏名

生年月日 昭和・平成 年 月 日

上記の者が、令和 7（2025）年度札幌医科大学大学院医学研究科（修士課程）の入学試験を受験することを許可します。

令和 年 月 日

札幌医科大学大学院医学研究科長 様

所在地

機関名

所属長（職・氏名）

印

令和7(2025)年度
札幌医科大学大学院医学研究科(修士課程)
出願資格審査申請書

令和 年 月 日

札幌医科大学大学院医学研究科長 様

(フリガナ)

出願者氏名 印

生年月日 昭和・平成 年 月 日 男・女
(歳)

貴大学大学院医学研究科(修士課程)の出願資格審査について、所定の書類を添えて申請いたします。

志望する専攻分野	第1志望	分野	
	第2志望	分野	
学歴 (高等学校卒業以降から記入)	高等学校		科
	大学		科
	昭和・平成・令和 年 月 日 入学	昭和・平成・令和 年 月 日 卒業	
	学校		科
大学		科	
昭和・平成・令和 年 月 日 入学	昭和・平成・令和 年 月 日 卒業		
学校		科	
大学		科	
昭和・平成・令和 年 月 日 入学	昭和・平成・令和 年 月 日 卒業		
資格	昭和・平成・令和 年 月 日		
	昭和・平成・令和 年 月 日		
職歴・研究歴	期 間	最終学校卒業後の経歴	
職歴	昭・平・令 年 月 ~ 昭・平・令 年 月		
	昭・平・令 年 月 ~ 昭・平・令 年 月		
	昭・平・令 年 月 ~ 昭・平・令 年 月		
研究歴	昭・平・令 年 月 ~ 昭・平・令 年 月		
	昭・平・令 年 月 ~ 昭・平・令 年 月		
	昭・平・令 年 月 ~ 昭・平・令 年 月		
現住所	〒	自宅電話 ☎() —	
		携帯電話 ☎() —	
審査結果通知先	〒	☎() —	

(注) 出願者氏名は、戸籍に基づいて正確に記載してください。

